

3 回答者ご本人について

問12 性別をお答えください。

1. 男性 2. 女性

問13 年齢をお答えください。

1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代
5. 50代 6. 60代 7. 70代以上

問14 居住地をお答えください。

1. 北海道 2. 東北 3. 関東・甲信越 4. 東海・北陸
5. 近畿 6. 中国・四国 7. 九州・沖縄

問15 同居している家族をお答えください
(該当するものをすべて選んでください)。

1. 配偶者 2. 父母(義父母を含む) 3. 子供(12歳以上)
4. 子供(12歳未満) 5. その他(_____)

問16 現在住んでいる地域での居住年数をお答えください。

1. 1年未満 2. 1～5年未満
3. 5～10年未満 4. 10～20年未満 5. 20年以上

問17 意識して取組んでいる健康管理・健康づくりの取組みがあれば、お答えください(該当するものをすべて選んでください)。

1. 定期的な運動 2. 栄養面での注意
3. 休養を取る 4. 定期的な健康診断・人間ドック
5. 医療機関への定期的な受診
6. 煙草を控える 7. 酒を控える 8. 特になし
9. その他(_____)

最後に、健保組合の取組みなどについてご意見があればお教えてください。

ご協力ありがとうございました。

回答記入欄

問12

問13

問14

問15

問16

問17

厚生科学研究費補助金（政策科学推進研究事業）
分担研究報告書

被保険者ニーズの把握に関する研究

分担研究者 古井祐司 三菱総合研究所研究員

研究要旨

被保険者のニーズ把握調査の実施及び集計・分析結果に基づく医療情報に対する被保険者ニーズの把握に関する研究

A. 研究目的

被保険者のニーズ把握調査を実施し、調査結果の集計・分析を行い、医療情報に対する被保険者のニーズ把握を行う。

B. 研究方法

まず、調査の実施にあたり、対象の40健保組合に対して調査の趣旨や実施方法等に関する説明会を行い、円滑に調査が実施されるよう配慮した。

調査実施後、各健保で共通のデータ入力様式を活用し、データ入力及び集計の統一性を確保した。最後に、データの集計及び分析を行った。（倫理面への配慮）

調査の実施にあたり、被保険者個人のプライバシー保護の観点から、被保険者名簿の管理や回答結果の処理（統計的処理を行い、個人を特定しない）に留意した。

C. 研究結果

（1）回答者（被保険者）は約3万4千人で、回収率は約54%であった（当研究班ホームページ参照：<http://www.hihokenjya.org/index.htm>）。

（2）受診する医療機関については、被保険者が想定する4つの症状：「生活習慣病」、「1ヶ月ほど胃が痛む」、「3歳の子供（嘔吐・下痢）」、「妊娠」別に大きな差が出たが、全体では、「かかりつけ医でまず受診」（48.0%）が最も多いが、「かかりつけ医がいないので探して受診」（24.4%）、「かかりつけ医がいな

いので受診経験があるところ」（21.1%）、「かかりつけ医はいるが他で受診」（3.9%）など医療機関情報が必要な群は過半数を占める。

（3）最も重視する医療機関の情報については、「インフォームドコンセント」（59.6%）が最も多く、次いで「医師の得意（専門）分野」（40.9%）、「所在地」（38.7%）などである。

（4）現在入手可能な情報としては、所在地や診療時間等の基本情報は7割前後が入手可能としているが、所在地以外の（3）で重視した項目は10%台と低い割合となっている。

（別添資料：医療情報に関するアンケート調査～結果概要～を参照）。

D. 考察

被保険者の情報ニーズに対応し、現在の情報提供状況との乖離を埋めるための方策を検討する必要がある。

E. 結論

被保険者の場面（疾病）別の情報ニーズと情報の入手可能状況等について把握された。

F. 健康危険情報

特に関連性を有しない。

G. 研究発表

なし。

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし。

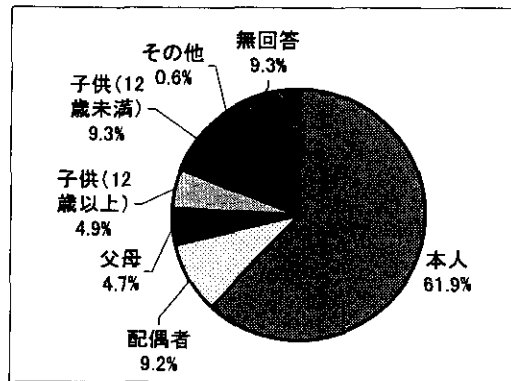
医療情報に関するアンケート調査～結果概要～

1. 医療機関の利用状況について

問1 受診した人

受診した人については、「本人」(61.9%)が最も多く、次いで「子供(12歳未満)」(9.3%)、「配偶者」(9.2%)などとなっている。

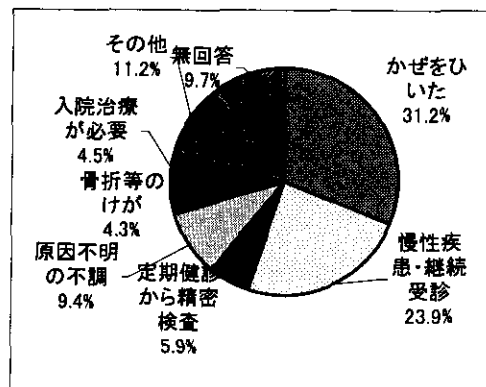
図表. 受診した人



問2 受診した時の症状

受診した時の症状については、「かぜをひいた」(31.2%)が最も多く、次いで「慢性疾患・継続受診」(23.9%)、「原因不明の不調」(9.4%)などとなっている。

図表. 受診した時の症状



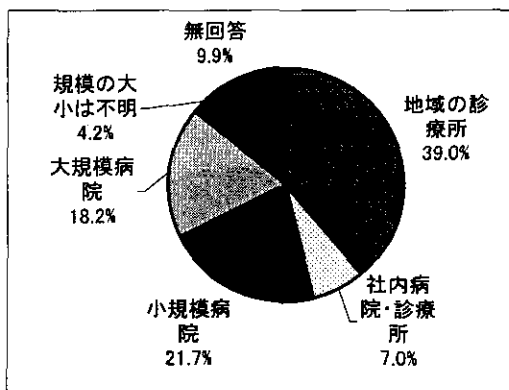
問3 受診先の医療機関

受診先の医療機関については、「地域の診療所」(39.0%)が最も多く、次いで「小規模病院」(21.7%)、「大規模病院」(18.2%)などとなっている。

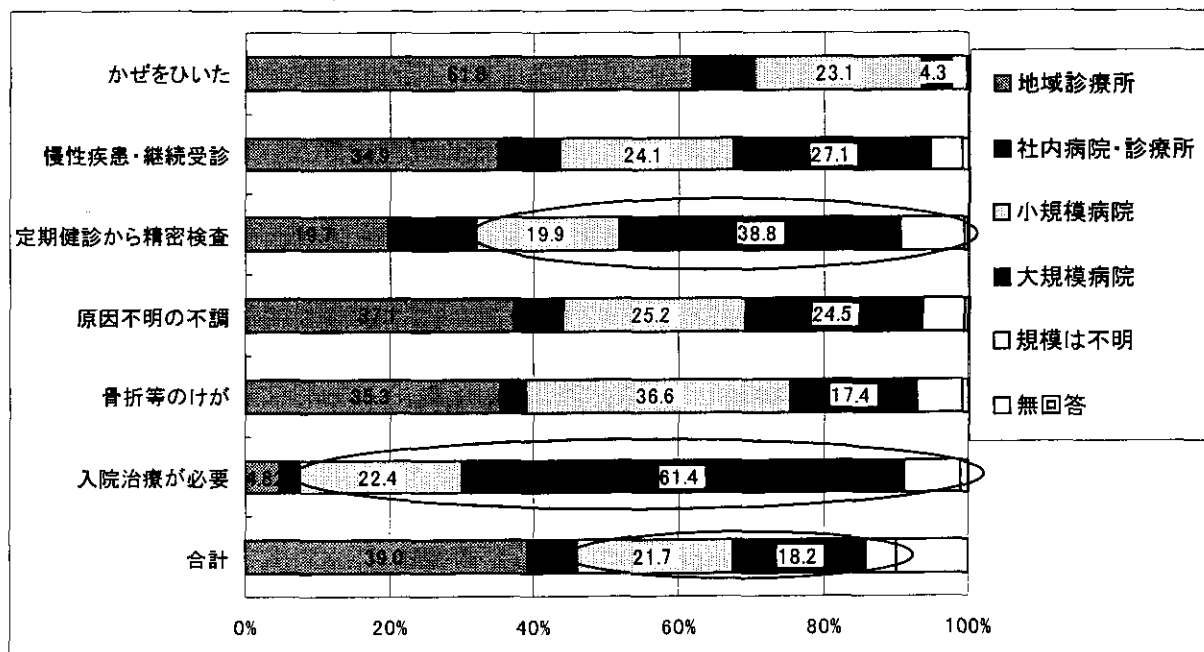
問2：受診した時の症状×問3：受診先の医療機関

「かぜをひいた」以外の症状は小規模・大規模を合わせて病院が過半数を占める。特に、「入院治療が必要」と「定期健診から精密検査」で、それぞれ大規模病院が61.4%、38.8%と、大病院志向が強い。

図表. 受診先の医療機関



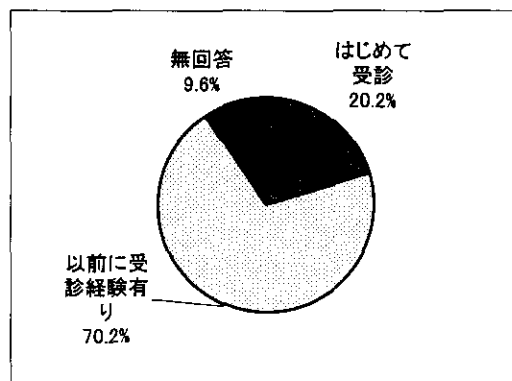
図表. 受診した時の症状×受診先の医療機関



問4 以前の受診経験

以前の受診経験については、「以前に受診経験有り」が70.2%、「はじめて受診」20.2%となっている。

図表. 以前の受診経験



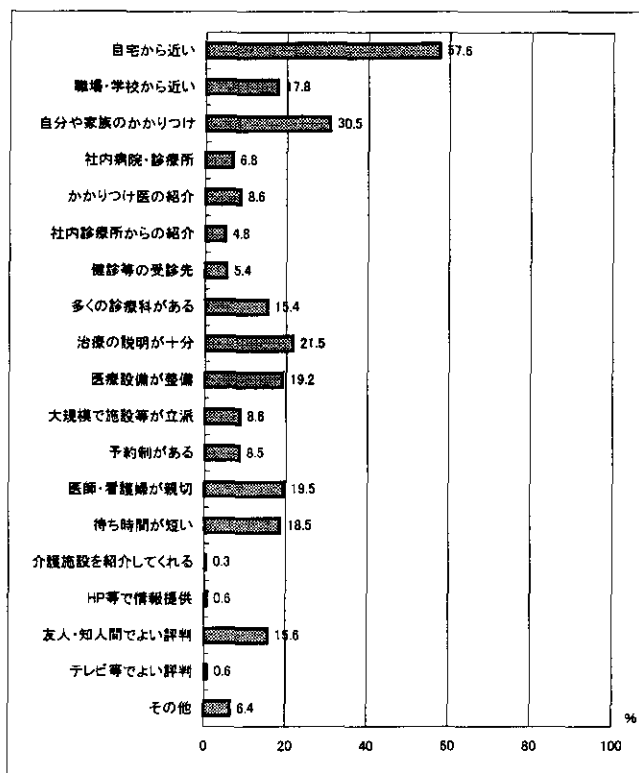
問5 当該医療機関の受診理由 (複数回答)

当該医療機関の受診理由については、「自宅から近い」(57.6%)が最も多く、次いで「自分や家族のかかりつけ」(30.5%)、「治療の説明が十分」(21.5%)などとなっている。

問2：受診した時の症状×問5：医療機関を選んだ理由

「入院治療が必要」、「健診から精密検査」では医療設備が整備がそれぞれ、1位、2位を占め、設備志向が強い。「慢性疾患・継続受診」、「健診から精密検査」では治療の説明が十分がそれぞれ3位と4位にあげられており、説明ニーズが強い。

図表. 当該医療機関の受診理由



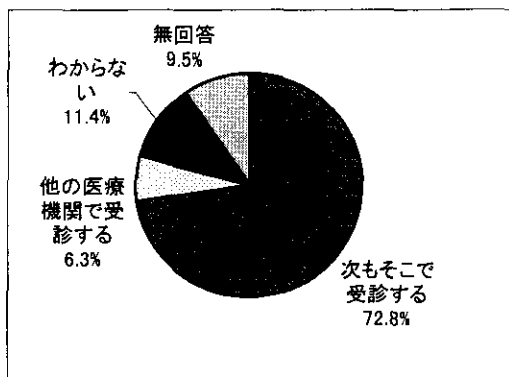
図表. 受診した時の症状×医療機関を選んだ理由

症状	1位	2位	3位	4位
かぜをひいた	自宅から近い(75%)	かかりつけ(45%)	待ち時間が短い(27%)	医師・看護婦が親切(26%)
慢性疾患・継続受診	自宅から近い(56%)	かかりつけ(35%)	治療の説明が十分(33%)	医療設備が整備(28%)
定期健診から精密検査	自宅から近い(47%)	医療設備が整備(37%)	検診等の受診先(29%)	治療の説明が十分(28%)
原因不明の不調	自宅から近い(65%)	かかりつけ(26%)	多くの診療科がある(26%)	医療設備が整備(26%)
骨折等のけが	自宅から近い(68%)	職場・学校から近い(25%)	医療設備が整備(22%)	かかりつけ(22%)
入院治療が必要	医療設備が整備(51%)	自宅から近い(50%)	多くの診療科がある(34%)	大規模・施設立派(29%)
合計	自宅から近い(58%)	自分・家族かかりつけ(31%)	治療の説明が十分(22%)	医師・看護婦が親切(20%)

問6 次回の受診意向

次回の受診意向については、「次もそこで受診する」(72.8%)が最も多く、次いで「わからない」(11.4%)、「他の医療機関で受診する」(6.3%)となっている。

図表. 次回の受診意向



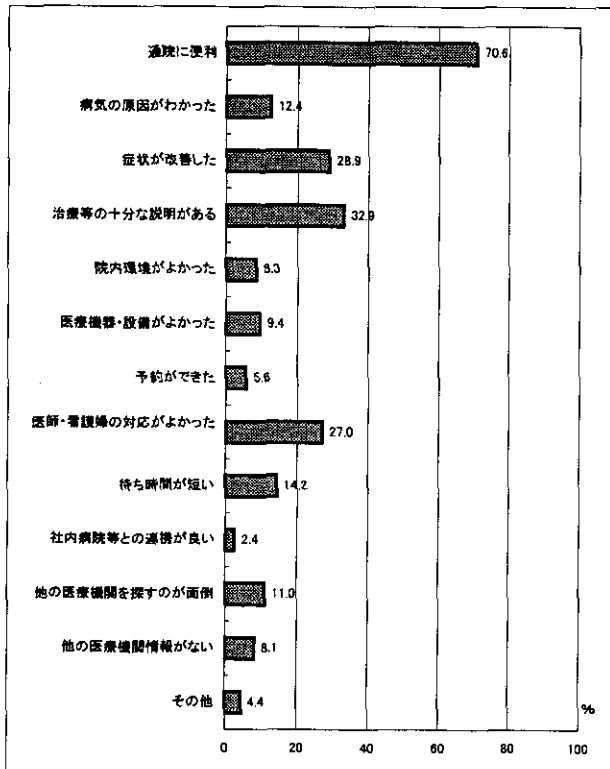
問7(1) 問6で1(「次もそこで受診する」)と回答した理由 (複数回答)

問6で1と回答した理由については、「通院に便利」(70.6%)が最も多く、次いで「治療等の十分な説明がある」(32.9%)、「症状が改善した」(28.9%)などとなっている。

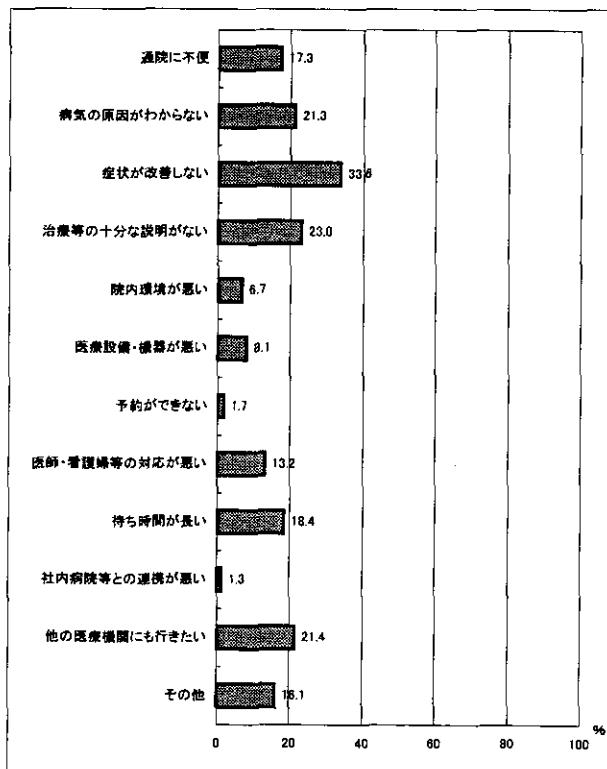
問7(2) 問6で2(「他の医療機関で受診する」)と回答した理由 (複数回答)

問6で2と回答した理由については、「症状が改善しない」(33.6%)が最も多く、次いで「治療等の十分な説明がない」(23.0%)、「他の医療機関にも行きたい」(21.4%)などとなっている。

図表. 問6で1(「次もそこで受診する」)と回答した理由



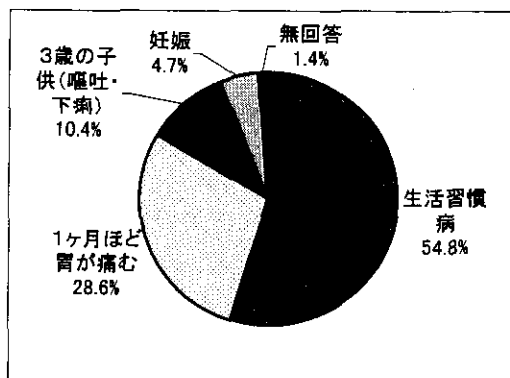
図表. 問6で2(「他の医療機関で受診する」)と回答した理由



問8 想定する症状について

想定する症状については、以下の通りである。「生活習慣病」(54.8%)が最も多く、次いで「1ヶ月ほど胃が痛む」(28.6%)、「3歳の子供(嘔吐・下痢)」(10.4%)、「妊娠」(4.7%)。

図表. 想定する症状について



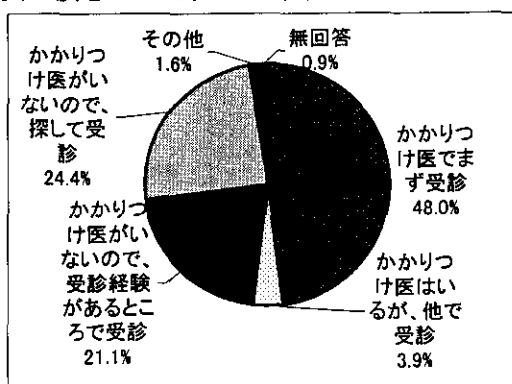
問9 想定した症状で受診する医療機関

想定した症状で受診する医療機関については、「かかりつけ医でまず受診」(48.0%)が最も多く、次いで「かかりつけ医がいないので、探して受診」(24.4%)、「かかりつけ医がいないので、受診経験があるところで」(21.1%)となっている。「かかりつけ医はいるが、他で受診」(3.9%)が最も少なくなっている。

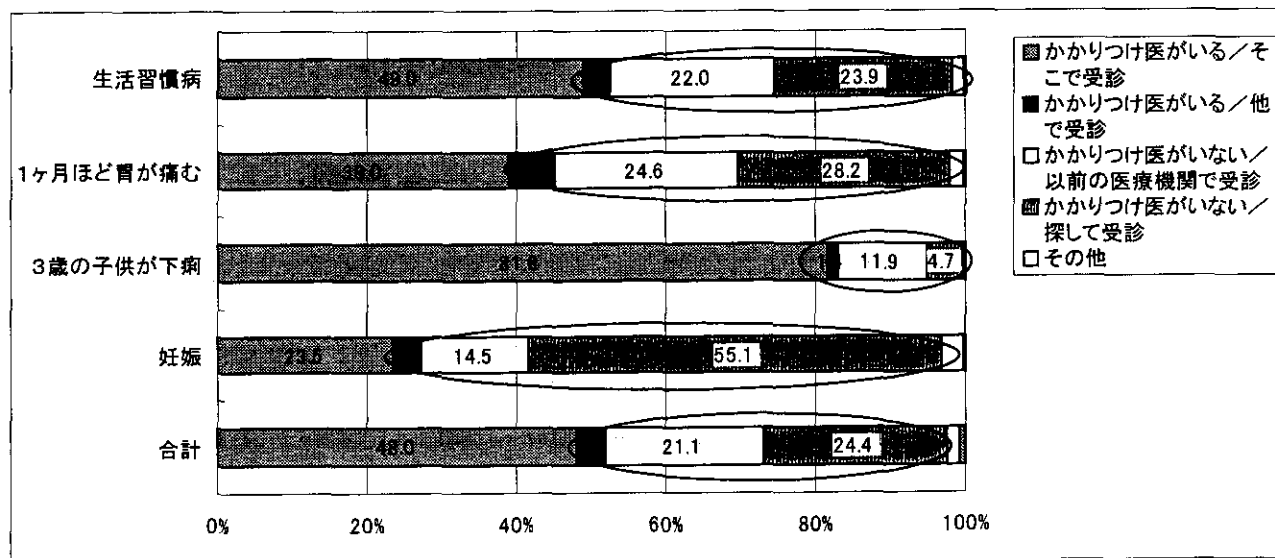
問8：想定ケース×問9：受診先医療機関

「3歳の子供が下痢」を除いた全てのケースでは、かかりつけ医がいないなど、医療機関情報が必要な群は過半数を占める。

図表. 想定した症状で受診する医療機関 (全体)



図表. 想定した症状で受診する医療機関



図表. 想定ケース×受診先医療

症状	1位	2位	3位	4位
生活習慣病	かかりつけ医(49%)	新規に探す(24%)	以前の受診先(22%)	かかりつけ医以外で受診(3%)
1ヶ月ほど胃が痛む	かかりつけ医(39%)	新規に探す(28%)	以前の受診先(25%)	かかりつけ医以外で受診(6%)
3歳の子供が下痢	かかりつけ医(82%)	以前の受診先(12%)	新規に探す(5%)	かかりつけ医以外で受診(1%)
妊娠	新規に探す(55%)	かかりつけ医(24%)	以前の受診先(15%)	かかりつけ医以外で受診(4%)
合計	かかりつけ医(48%)	新規に探す(24%)	以前の受診先(21%)	かかりつけ医以外で受診(4%)

問 10 医療機関を選ぶときに重視する情報

*問 10 に関する集計：すべて複数回答で、完全な無回答は 1106 (3.2%) であった。

問 10(1) 知りたい医療機関の情報（問 8 のケース別：複数回答）

知りたい医療機関の情報について、全体では、どうしても知りたい情報については、「インフォームドコンセント」(78.2%) が最も多く、次いで「所在地」(77.7%)、「診療日・診療時間」(75.1%) などとなっている。

次にケース別にみると、以下のようになっている。

- ・ 生活習慣病

生活習慣病のケースにおいては、「インフォームドコンセント」(77.7%) が最も多く、次いで「所在地」(77.5%)、「診療日・診療時間」(73.7%) などとなっている。

- ・ 1ヶ月ほど胃が痛む

1ヶ月ほど胃が痛むケースにおいては、「インフォームドコンセント」(82.0%) が最も多く、次いで「所在地」(80.1%)、「診療日・診療時間」(76.6%) などとなっている。

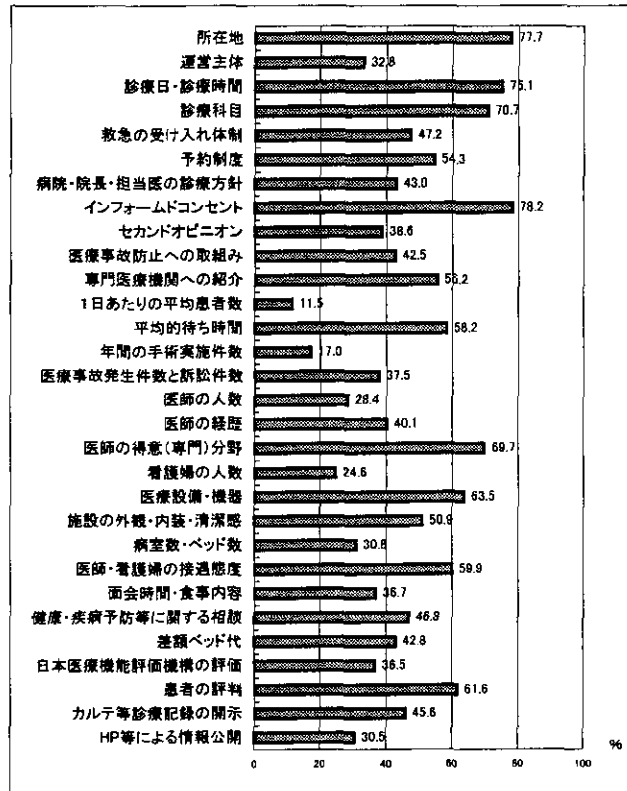
- ・ 3歳の子供（嘔吐・下痢）

3歳の子供（嘔吐・下痢）のケースにおいては、「診療日・診療時間」(84.0%) が最も多く、次いで「インフォームドコンセント」(79.2%)、「所在地」(78.7%) などとなっている。

- ・ 妊娠

妊娠のケースにおいては、「所在地」(86.6%) が最も多く、「診療日・診療時間」(84.9%)、「インフォームドコンセント」(80.4%) などとなっている。

図表. 知りたい医療機関の情報



問 10(2) そのうち最も重視する医療機関の情報 (5 項目以内)

(問 10(1)のうち) 最も重視する医療機関の情報については、全体で見ると、「インフォームドコンセント」(59.6%)が最も多く、次いで「医師の得意(専門)分野」(40.9%)、「所在地」(38.7%)などとなっている。

・生活習慣病

生活習慣病のケースにおいては、「インフォームドコンセント」(58.9%)が最も多く、次いで「医師の得意(専門)分野」(42.0%)、「所在地」(38.8%)などとなっている。

・1ヶ月ほど胃が痛む

1ヶ月ほど胃が痛むケースにおいては、「インフォームドコンセント」(64.1%)が最も多く、次いで「医師の得意(専門)分野」(45.0%)、「所在地」(36.8%)などとなっている。

・3歳の子供(嘔吐・下痢)

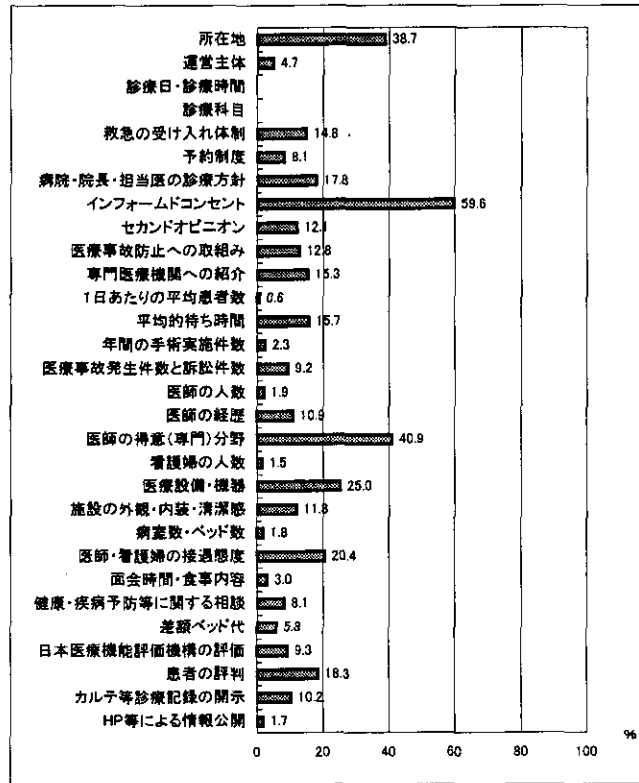
3歳の子供(嘔吐・下痢)のケースにおいては、「インフォームドコンセント」(60.8%)がもっとも多く、次いで「所在地」(42.5%)、「医師の得意(専門)分野」(38.5%)などとなっている。

・妊娠

妊娠のケースにおいては、「インフォームドコンセント」(55.0%)が最も多く、次いで「所在地」(51.4%)、「医師・看護婦の接遇態度」(35.5%)などとなっている。

・合計

図表. そのうち最も重視する医療機関の情報



図表. ケース別・最も重視する医療機関の情報

症状	1位	2位	3位	4位
生活習慣病	インフォームドコンセント(59%)	医師の得意・専門分野(42%)	所在地(39%)	医療設備・機器(25%)
1ヶ月ほど胃が痛む	インフォームドコンセント(64%)	医師の得意・専門分野(45%)	所在地(37%)	医療設備・機器(29%)
3歳の子供が下痢	インフォームドコンセント(61%)	所在地(43%)	医師の得意・専門分野(39%)	救急の受け入れ体制(34%)
妊娠	インフォームドコンセント(55%)	所在地(51%)	医師・看護婦接遇態度(36%)	患者の評判(34%)
合計	インフォームドコンセント(60%)	医師の得意・専門分野(41%)	所在地(39%)	医療設備・機器(25%)

問 10（3）現在入手可能と思われる医療機関の情報

現在入手可能と思われる医療機関の情報について、全体では、「所在地」（77.8%）が最も多く、次いで「診療日・診療時間」（69.2%）、「診療科目」（68.9%）などとなっている。

一方、最も少ないのは、「医療事故発生件数と訴訟件数」（5.3%）で、次に「セカンドオピニオン」（5.9%）、「医療事故防止への取り組み」（6.1%）の順に少なくなっている。

次にケース別にみると以下のようになっている。

・生活習慣病

生活習慣病のケースにおいては、「所在地」（76.0%）が最も多く、次いで「診療科目」（67.2%）、「診療日・診療時間」（67.1%）などとなっている。

一方最も少ないのは「医療事故発生件数と訴訟件数」（5.8%）で、次いで「セカンドオピニオン」（6.4%）、「医療事故防止への取り組み」（6.6%）の順に少なくなっている。

・1ヶ月ほど胃が痛む

1ヶ月ほど胃が痛むケースにおいては、「所在地」（79.1%）が最も多く、次いで「診療日・診療時間」（71.0%）、「運営主体」（70.6%）などとなっている。

一方、最も少ないのは、「セカンドオピニオン」（5.3%）で、次に「医療事故発生件数と訴訟件数」（5.6%）、「医療事故防止への取り組み」（5.9%）の順に少なくなっている。

・3歳の子供（嘔吐・下痢）

3歳の子供（嘔吐・下痢）のケースにおいては、「所在地」（82.1%）が最も多く、次いで「診療日・診療時間」（72.3%）、「診療科目」（72.3%）などとなっている。

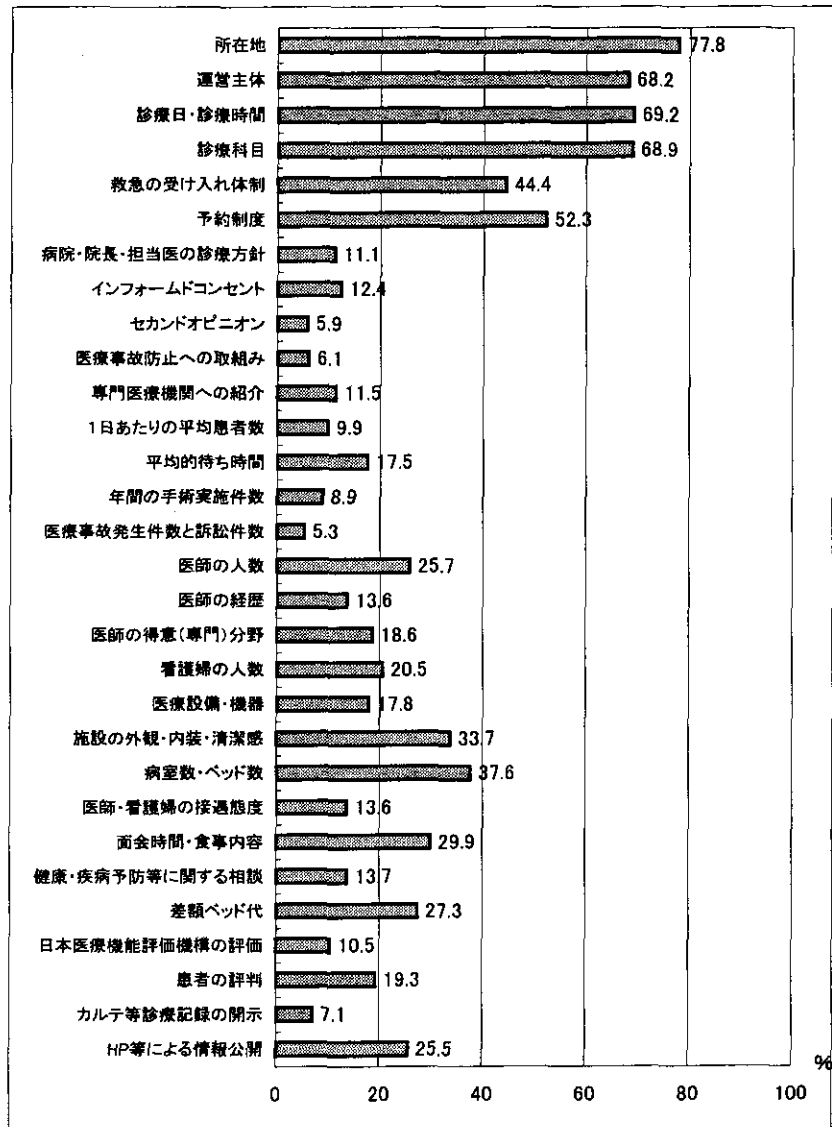
一方、最も少ないのは、「医療事故発生件数と訴訟件数」（3.3%）で、次に「医療事故防止への取り組み」（4.8%）、「カルテ等診療記録の開示」（5.1%）の順に少なくなっている。

・妊娠

妊娠のケースにおいては、「所在地」（81.6%）が最も多く、次いで「診療日・診療時間」（73.2%）、「診療科目」（71.0%）などとなっている。

一方、最も少ないのは、「医療事故防止への取り組み」（3.4%）で、次に少ないのが「医療事故発生件数と訴訟件数」（4.0%）、「セカンドオピニオン」（4.1%）などとなっている。

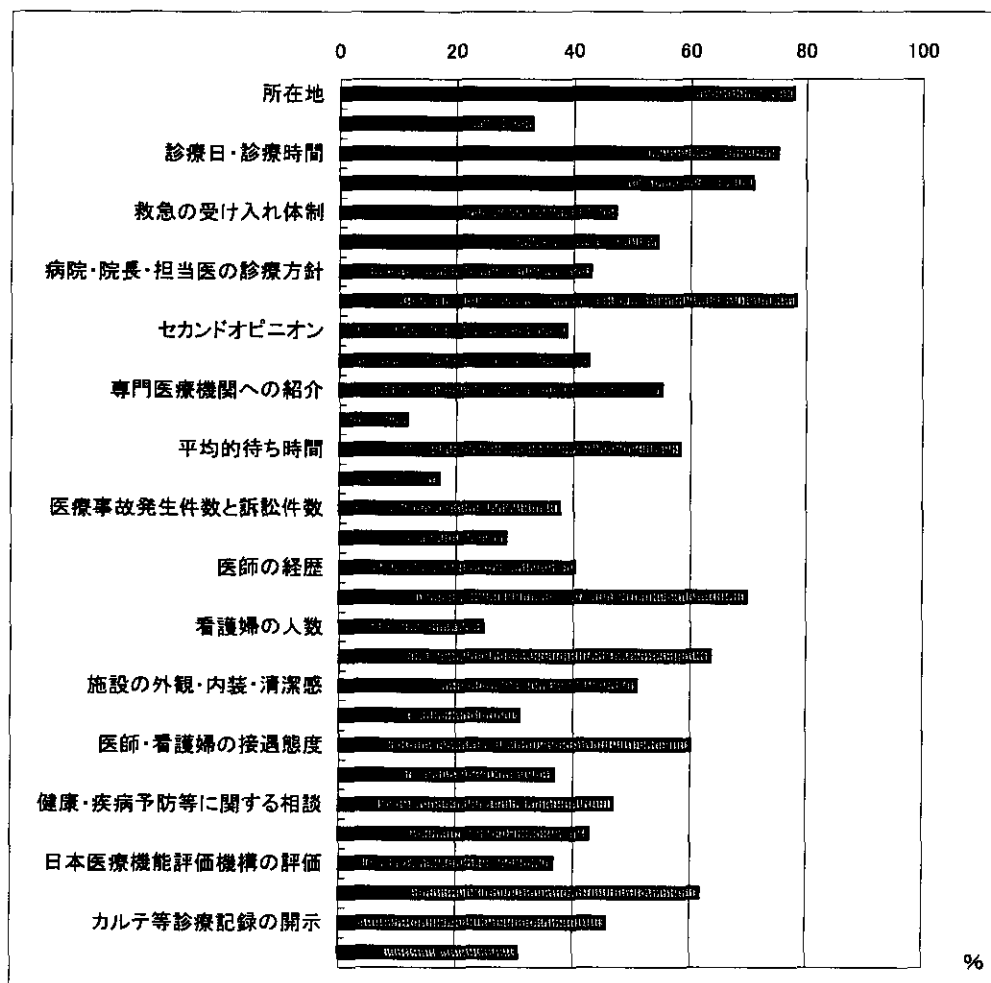
図表. 現在入手可能と思われる医療機関の情報



問 10 (1) 知りたい医療機関の情報×問 10 (3) 現在入手可能を思われる情報

知りたいと回答した割合が高い情報のうち、「所在地」(60.5%)が「診療日・診療時間」(52.0%)、「診療科目」(48.7%)などの基本情報は比較的入手可能な割合が高いが、「インフォームド・コンセント」(12.4%)や「医師の得意(専門)分野」(18.6%)などの基本情報以外の項目では、入手可能な割合は低くなっている。

図表. 知りたい医療機関の情報×現在入手可能を思われる情報



2. 基本的属性について

問 12 性別

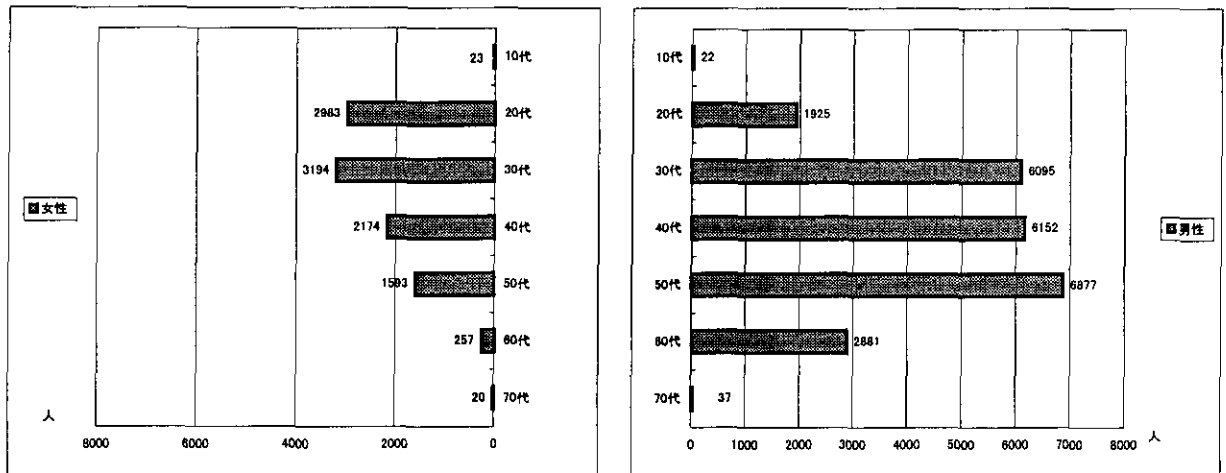
性別については、「男性」(69.0%)、「女性」(29.4%)となっている。

問 13 年齢

年齢については、「30代」(26.7%)が最も多く、次いで「50代」(24.3%)、「40代」(23.9%)となっている。

性別ごとに年齢をみると、男性では、「50代」(28.6%)が最も多く、次いで「40代」(25.6%)、「30代」(25.4%)などとなっている。女性は、「30代」(31.2%)が最も多く、次いで「20代」(29.1%)、「40代」(21.2%)などとなっている。

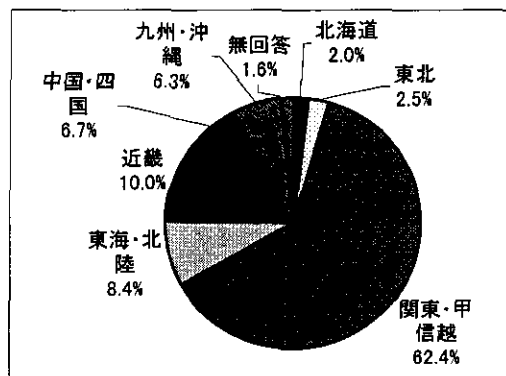
図表. 性別×年齢



問 14 居住地

居住地については、「関東・甲信越」(62.4%)が最も多く、次いで「近畿」(10.0%)、「東海・北陸」(8.4%)などとなっている。

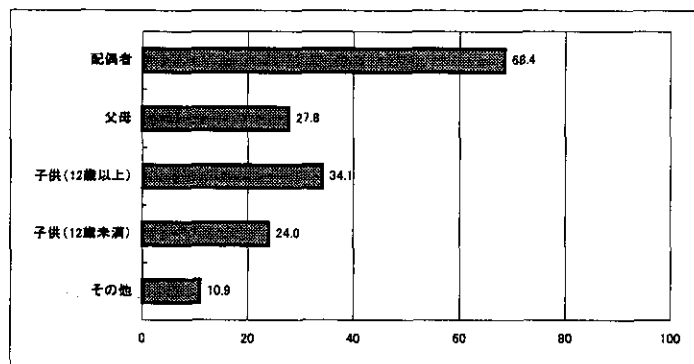
図表. 居住地



問 15 同居家族（複数回答）

同居家族については、「配偶者」（68.4％）が最も多く、次いで「子供（12歳以上）」（34.1％）、「父母」（27.8％）などとなっている。

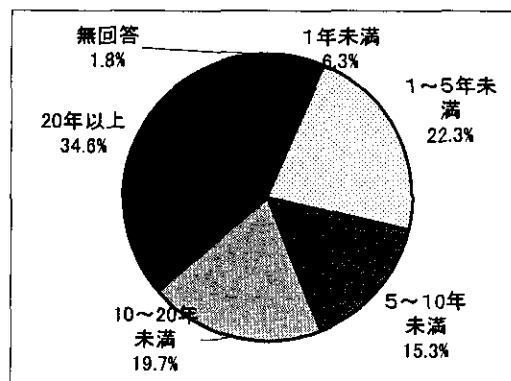
図表. 同居家族



問 16 現住地の居住年数

現住地の居住年数については、「20年以上」（34.6％）が最も多く、次いで「1～5年未満」（22.3％）、「10～20年未満」（19.7％）などとなっている。

図表. 現住地の居住年数



問 17 意識して取り組んでいる意識・健康管理（複数回答）

意識して取り組んでいる意識・健康管理については、「栄養面での注意」（58.1%）が最も多く、次いで「休養を取る」（51.0%）、「定期的な運動」（44.5%）などとなっている。

図表. 意識して取り組んでいる意識・健康管理

